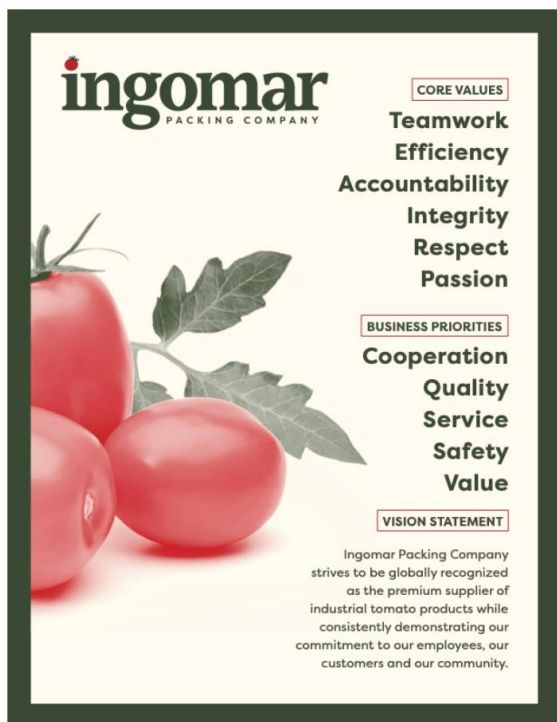


2024年1月26日付適時開示

「Ingomar Packing Company, LLCの持分追加取得（連結子会社化）等に関するお知らせ」

## 補足説明資料



2024年1月26日

1. Ingomar社の概要
2. 投資の概要
3. 中長期の展望と投資の位置付け
4. 資金調達
5. 連結業績影響
6. ガバナンス/PMI
7. Q&A



# 1. Ingomar社の概要

- ・トマトペースト、ダイストマトを製造販売するトマト一次加工会社
- ・トマト一次加工品生産能力 **米国第2位**（世界4位）

## 【概要】

設立	1983年
所在地	米国カリフォルニア州ロスバノス市
主な事業内容	トマトペースト、ダイストマトの製造販売
工場	第1工場（1983年～）/トマトペースト製造 第2工場（2000年～）/トマトペースト、ダイストマト製造
代表者兼CEO	Greg Pruett氏
出資者	6農家(80%)、KIUS(20%)※2016年9月 KIUSを通じ出資

## 【トマト1次加工業界でのポジション】

- ・年間加工能力：生トマト155万トン（2022年実績）
  - － 米国第2位（世界第4位）

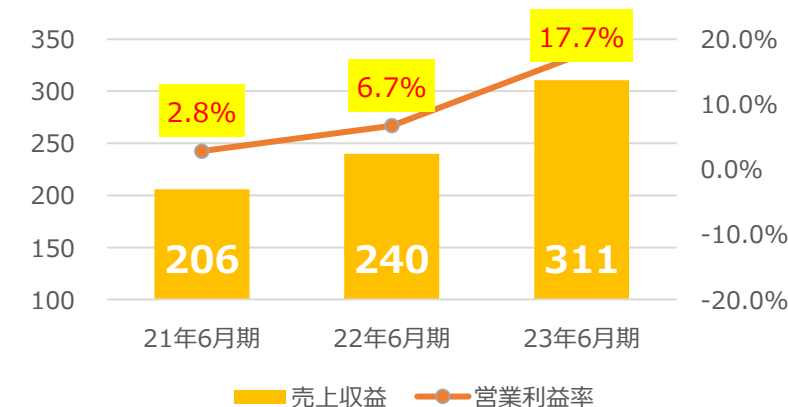
\*出典：2023年5月9日  
Tomato News

## 【カゴメグループとの取引】

- ・長年にわたり、米国の主要サプライヤーとして取引を継続



## 過去3年業績推移（単位：百万米ドル）



## 2. 投資の概要

### ・Ingomar社の50%持分追加取得による**連結子会社化**

現在（20%持分）：持分法適用関連会社 → 今後（70%持分）：連結子会社

### ・投資額 **243百万米ドル**（約360億円） – **過去最大の投資額** –

#### 海外成長の加速

国際事業の成長が急激に加速

- 売上収益 2023年度予想 860億円  
（対前年+27%成長、連結構成比 39%）
- 事業利益 2023年度予想 107億円  
（利益率 12.4%、連結構成比 66%）

#### トマト加工事業を取り巻く環境変化

- 加工用トマトの消費量は年々増加
- 一方、水不足、熱波などの気候変動に加えて、ウクライナ紛争の影響により加工用トマトの生産は不安定な状況



#### Ingomar社 の特徴・強み

- ・加工用トマト生産量・生産能力 米国2位のプレゼンス
- ・優良な顧客基盤、生トマト調達基盤（出資者農家による高い栽培技術）
- ・カゴメグループとの長年に渡る取引による相互信頼関係

#### 本件の目的

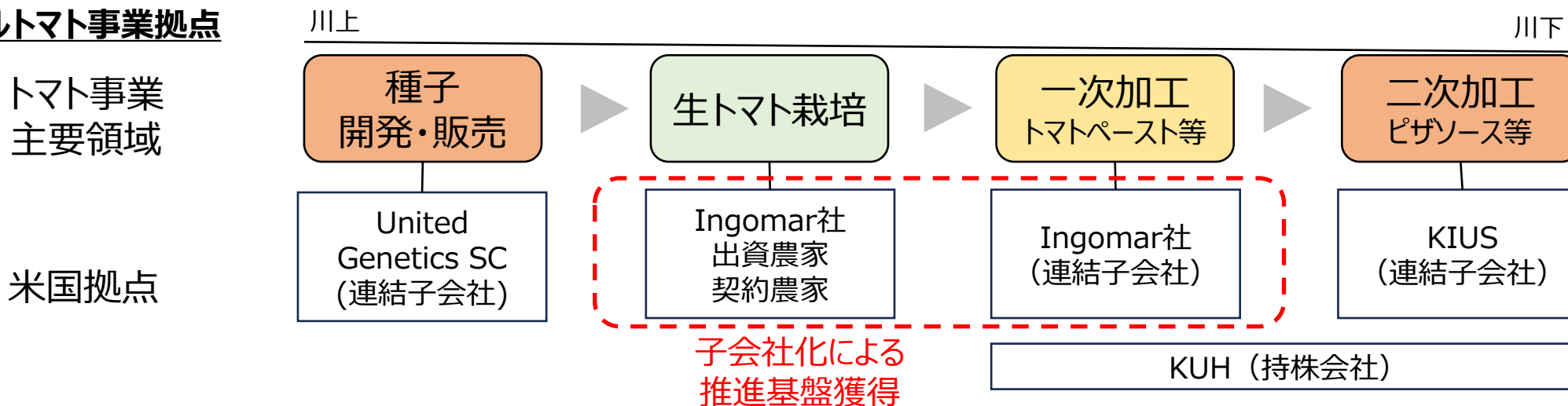
- ① 米国トマト加工事業のバリューチェーンの強化による米国事業の更なる成長
- ② トマト加工事業のグローバルネットワークの強化による国際事業全体の成長加速
- ③ 農業領域の取り組み強化による、競争優位性があり、持続可能なトマト加工事業の構築

# 3. 中長期の展望と投資の位置付け①

- ・農業領域の取り組み強化による、競争優位性があり、持続可能なトマト加工事業の構築
- ・世界最大の加工用トマト産地、かつ、技術最先端の米国でソリューションを開発し、グローバル展開する

## カゴメグループ

### グローバルトマト事業拠点



### グローバルグループ他拠点

#### グローバル・アグリ・リサーチ&ビジネスセンター

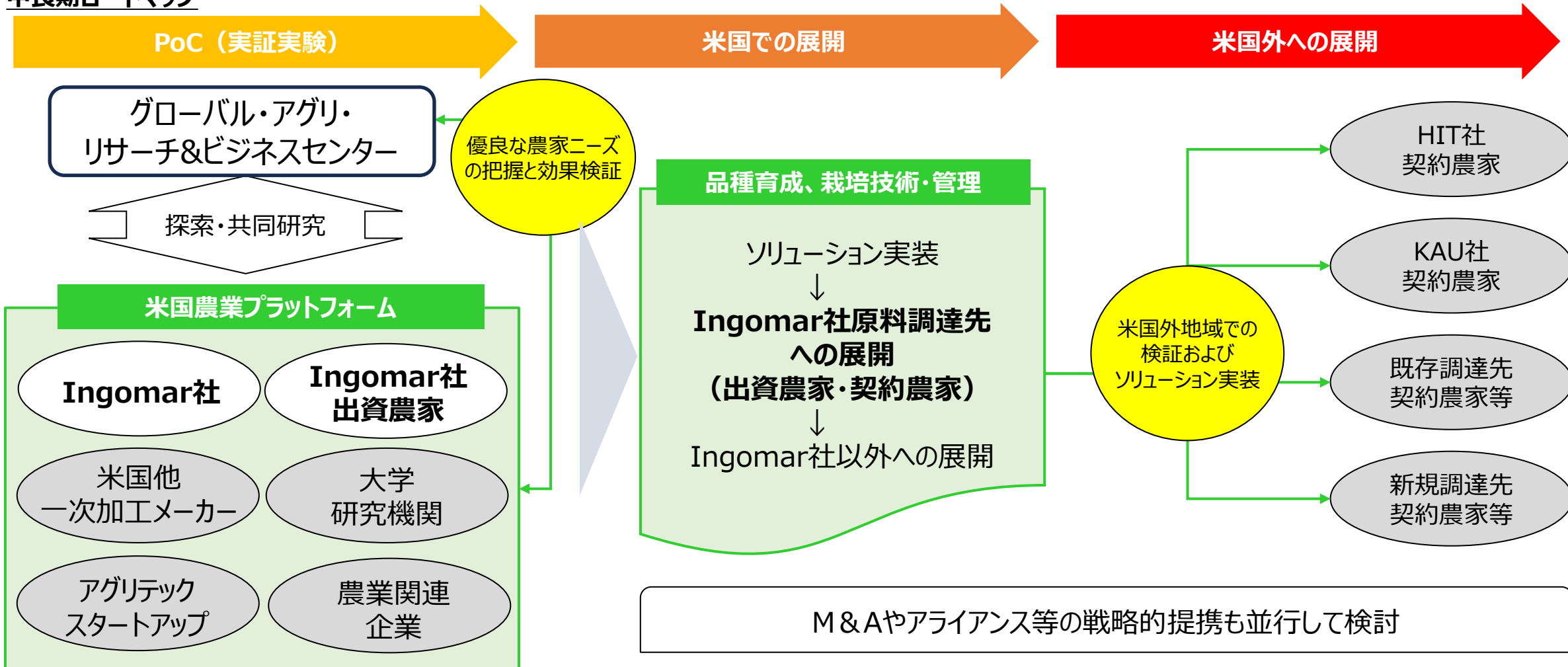
- ・農業全域の研究  
カゴメアグリビジネス研究開発センター (欧州)
- ・種子生産販売、育苗  
United Geneticsグループ (欧州、アジア、他)
- ・農業ICTプラットフォーム開発、営農支援  
DXAS Agricultural Technology (欧州)
- ・アフリカでの栽培研究、営農支援  
Kagome Senegal (アフリカ)

#### カゴメ・フード・インターナショナルカンパニー

- ・生トマト栽培  
KAU (豪州)
- ・一次加工拠点  
HIT (欧州)、KAU (豪州)
- ・二次加工拠点  
HIT (欧州)、KAU (豪州)  
台湾カゴメ、Kagome Foods India (アジア)

# 3. 中長期の展望と投資の位置付け②

- ・農業領域の取り組み強化による、競争優位性があり、持続可能なトマト加工事業の構築
- ・世界最大の加工用トマト産地、かつ、技術最先端の米国でソリューションを開発し、グローバル展開する  
中長期ロードマップ



# 4. 資金調達

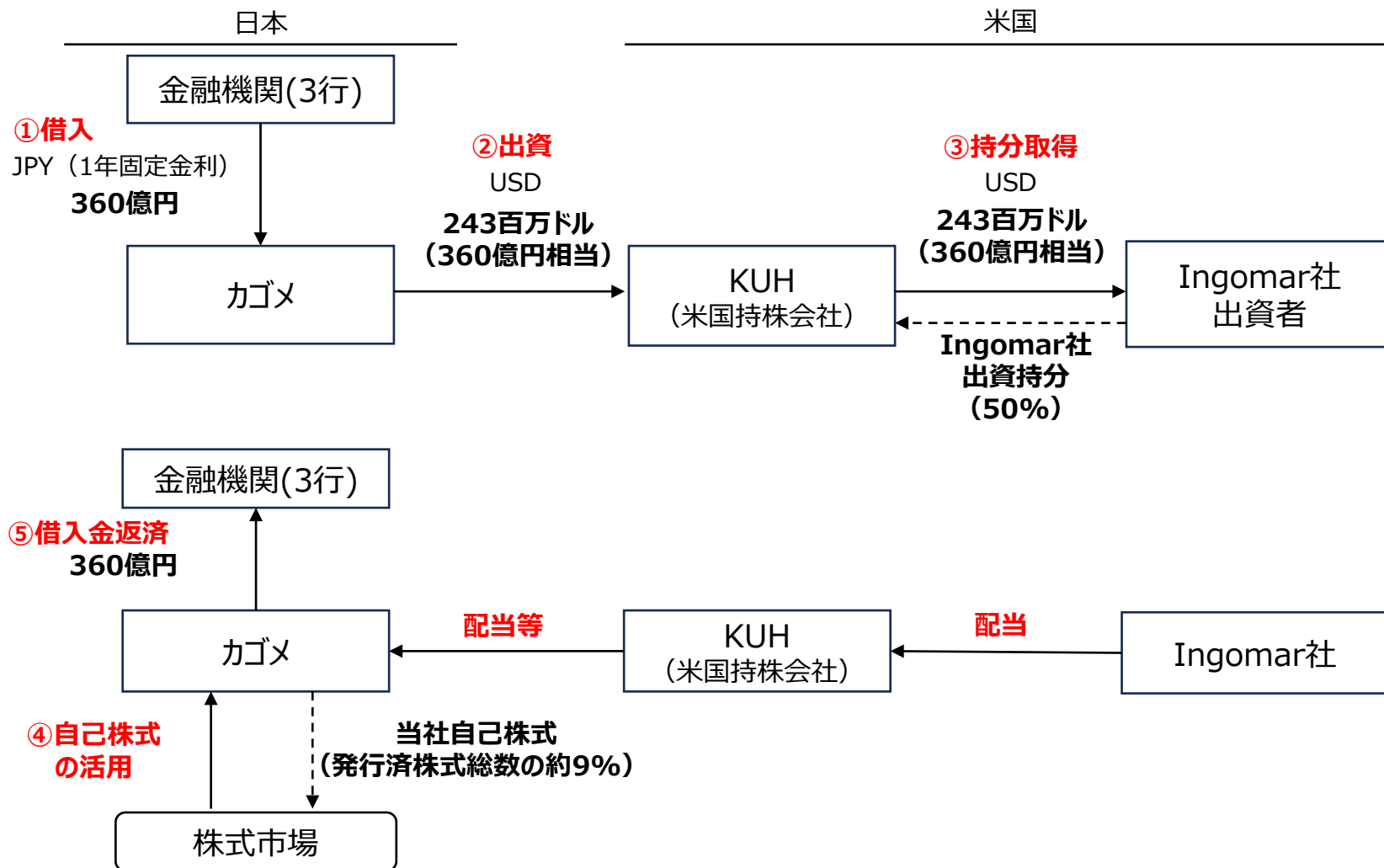
- ・パーマネント化までの間、本投資資金 243百万米ドル（約360億円）を借入調達
- ・第3次中計インオーガニック投資資金である**自己株式の活用等**により、パーマネント化を予定

## ブリッジ・ローン

- 投資～パーマネント化までの約1年間はブリッジ・ローンを実施
- ブリッジローンの主要条件
  - ・通貨：JPY
  - ・期間：1年間
  - ・金利コスト：約1億円/年

## パーマネント化

- 自己株式の活用 + Ingomar社からの配当金等により今後1年程度でパーマネント化を予定
- M&A資金として確保していた自己株式を活用（規模・時期は設計中）



# 5. 連結業績影響

- ・2024年度連結業績に与える影響は精査中（2024年2月1日に公表予定）
- ・現時点の影響見込み（概算）：**売上収益 3割増、当期利益・EPS 倍増**

Ingomar社子会社化に伴う  
2024年度決算影響見込（概算）

連結売上収益  
への影響

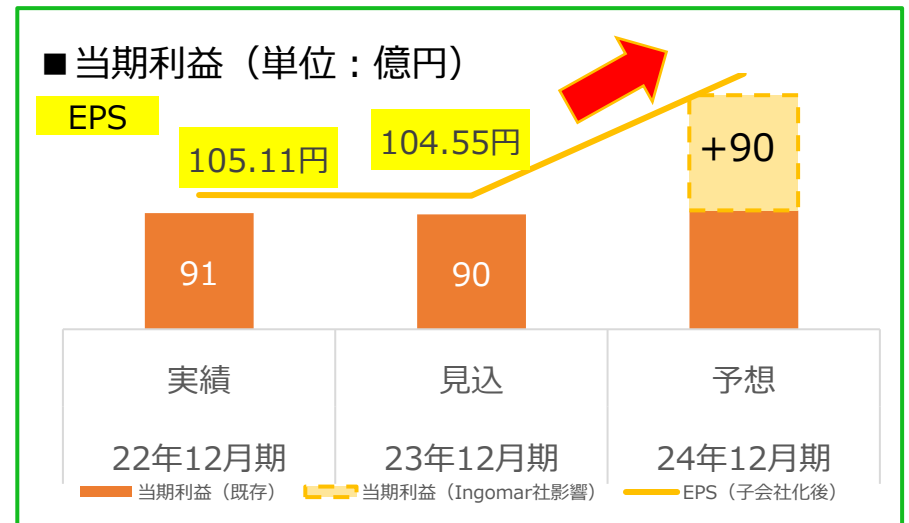
**3割増**  
+約500~600億円

当期利益※、EPS  
(1株当たり利益)  
への影響

※親会社の所有者に帰属  
する当期利益

**倍増**  
当期利益 + 約90億円  
EPS + 約100円

Ingomar社の業績取込みの他、  
IFRS3号「企業結合」適用に伴う影響を含む







# 6. ガバナンス/PMI

- ・取締役会などの導入に加え、グループ全体でガバナンスが健全に機能する体制を構築
- ・PMIは、カゴメ・Ingomar社の専門チームを組成し、早期の統合を図る

## ガバナンス体制

カゴメ	取締役会/経営会議
主管：カゴメ・フード・インターナショナルカンパニー （特別委員会、オペレーティングコミッティ）	

### グループガバナンス

Ingomar社	出資者総会
取締役会 (NEW)	
 カゴメ社員	 Ingomar社メンバー
経営会議 (NEW)	カゴメ 海外 駐在員

## PMI



- 対象領域
  - ・事業戦略
  - ・統制
  - ・人事
  - ・財務経理
  - ・システム
  - ・農業調達
  - ・生産品質
  - ・営業

### PMI重点課題

農業研究	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出資農家との技術開発連携</li> <li>・北米トマト圃場での実証、事業化検討</li> </ul>
グループ間連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他のグループ加工拠点との連携</li> <li>・顧客ニーズに応じた製品開発</li> </ul>
オペレーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産性効率向上、原価低減</li> <li>・グローバル品質管理基準、環境の取り組み</li> </ul>
経営基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算期、会計制度、会計監査人の統一</li> <li>・ITシステム基盤、リスク管理の強化</li> </ul>

# 7. Q&A

Question	Answer
<p>カゴメグループの生トマト加工能力（年間）は、どのように変化するか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製造拠点は、現状の4工場（日本1工場、ポルトガル2工場、オーストラリア1工場）から米国2工場が加わり、<b>年間の生産能力は223万トン（+155万トン）</b>になります。</li> <li>・その結果、Ingomar社の子会社化により、カゴメグループの生トマト加工能力（年間）は、<b>世界3位</b>になります（子会社化前は14位）。 *出典：Tomato News</li> </ul>
<p>2020年度にIngomar社に対する投資減損をしているが、今後同社の業績が悪化するリスクはあるか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2020年は、米国内の供給過剰によるトマトペースト価格の低下を起因として、Ingomar社が赤字決算となったため、投資額の内、一部（約10億円）を減損しました。</li> <li>・現在、<b>米国内の供給量は適正化</b>されており、同様の事業環境となる可能性は低いと考えています。</li> </ul>
<p>トマト一次加工品の今後の市況（価格）の見通しは？ また、Ingomar社の業績に与える影響は？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト1次加工品は、2023年産生トマトの生産増加で世界的な在庫不足は緩和しており、市況（価格）は<b>数年にかけて徐々に低下</b>していく見込みです。</li> <li>・Ingomar社の業績は、市況（価格）低下の影響を受けますが、少なくとも<b>今後2～3年の間は現状の収益水準が継続</b>するものと予測しております。</li> </ul>
<p>第3次中計は、トマト一次加工事業は規模適正化を進める方針であったが、戦略を変更するのか？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト1次加工品が世界的に不足している直近の事業環境から2次加工品の<b>原料調達・供給基盤として1次加工拠点の重要性が向上</b>しています。</li> <li>・今回の投資は、1次加工事業の規模拡大を狙ったものではなく、<b>トマト事業全体のグローバルバリューチェーンを強化</b>するものとなります。</li> </ul>
<p>Ingomar社を子会社化することで期待するシナジーは何か？</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・短期では、カゴメの製造管理や品質管理の導入等により、<b>Ingomar社の米国2位のポジションを強化</b>していきます。</li> <li>・中長期では、農業技術先進地域かつトマト産業中心地である米国加州において、<b>Ingomar社および出資農家との価値共創</b>により、<b>サステナブルかつ競争優位なトマト事業の構築</b>を目指しています。</li> </ul>



本資料は、投資判断の参考となる情報提供のために作成されたものであり、投資勧誘又はそれに類する行為を目的としたものではありません。  
また、本資料に記載された業績予測ならびに将来予測は、資料作成時点での弊社の判断であり、潜在的なリスクや不確実な要素が含まれています。  
従って、将来実際に公表される業績等は、本資料に記載されている内容とは大きく異なる結果となる可能性があります。  
弊社は、本資料の情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありませんので、ご了承ください。